

(第一類 第六号)

第十五回国会 大蔵委員会議録

第十号

(一四一)

昭和二十七年十二月六日(土曜日)

午前十時五十六分開議

出席委員

委員長

奥村又十郎君

理事浅香 忠雄君 球磨川野 芳瀬君
理事松尾トシ子君 球磨佐藤次郎君

大泉 寛三君

大村 清一君

佐治 誠吉君

中田 政美君

西村 直己君

西村 茂生君

宮幡 靖君

荒木萬壽夫君

小川 半次君

笹山茂太郎君

中崎 敏君

吉田 正君

秀男君

岡崎 勝男君

出席政府委員

大蔵政務次官 愛知 握一君

外務大臣 白石 正雄君

計局法規課長(主税局税制第一課長) 大藏事務官(主税局税制第一課長) 大藏事務官(主税局税制第一課長)

水産庁長官 塚見友之助君

委員外の出席者

農林技官(水産) 伊藤 茂君

船保険課長 伊藤 茂君

専門員 植木 文也君

専門員 黒田 久太君

十二月四日

食糧管理特別会計の歳入不足を補てんするための一般会計からする繰入金に関する法律案(内閣提出第一三号)

元海軍文官に退職賞与金復活に関する請願(北村徳太郎君紹介)(第三八一号)

滋養食品の製造と酒税法に関する請願(大石武一君紹介)(第三九六号)

揮発油税軽減に関する請願(早川崇君紹介)(第四〇四号)

同(佐伯宗義君紹介)(第四〇五号)

同(平野三郎君紹介)(第四〇六号)

同(石橋滋山君紹介)(第四〇七号)

同(吉川大介君紹介)(第四〇八号)

同(平塚常次郎君紹介)(第四〇九号)

同(鈴川信三君紹介)(第四一一号)

同(佐藤善一郎君紹介)(第四一二号)

同(甲斐中文治郎君紹介)(第四一三号)

同(長野長廣君紹介)(第四一八六号)

同(甲斐中文治郎君紹介)(第五一〇号)

旧陸軍共済組合員に年金交付に関する請願(山花秀雄君紹介)(第四一二号)

政府資金の統一運用に関する請願(河原田稼吉君紹介)(第四四五三号)

本日の会議に付した事件

貴石、半貴石及びその製品に対する物品税免税点設定等に関する請願(内田常雄君紹介)(第四八九号)

弁護士の所得に対する源泉徴収制度廃止に関する請願(明禮輝三郎君外十四名紹介)(第四九二号)

の審査を本委員会に付託された。

弁護士の所得に対する源泉徴収制度廃止等の陳情書(日本弁護士連合会会長野国助)(第六二八号)

揮発油税収入を道路整備事業費に充當の陳情書(東京都議會議長斎藤清亮外七名)(第六二九号)

本年産米の超過供出分等に対する免稅措置の陳情書(群馬県町村会長宇佐美勇外一名)(第六三〇号)

国民金融公庫に対する政府出資増額の陳情書(新潟県商工会議所連合会会頭和田閑吉外二名)(第六三一号)

年末融資促進に関する陳情書(尾道市商工會議所会頭金尾馨外十二名)(第六三二号)

政府資金の統一運用に関する陳情書(富山県婦負郡黒瀬村長杉山小左エ門外一名)(第六三三号)

を本委員会に送付された。

入金に関する法律の一部を改正する法律案(内閣提出第九号)

漁船再保險特別会計法の一部を改正する法律案(内閣提出第一一号)

食糧管理特別会計法(大正十年法律第三十七号)の一部を次のよう改訂する。

第四条ノ二中「千七百億円」を「一千二百億円」に改める。

○附 則

この法律は、公布の日から施行する。

○奥村委員長 これより会議を開きます。

す。一昨四日本委員会に付託に相なりました食糧管理特別会計の歳入不足を補てんするための一般会計からする繰入金に関する法律案及び食糧管理特別会計法の一部を改正する法律案の両法律案を一括議題といたしまして、まず政府当局より提案趣旨の説明を聴取いたします。大蔵政務次官愛知 握一君。

○愛知政府委員 ただいま議題となりました食糧管理特別会計の歳入不足を補てんするための一般会計からする繰入金に関する法律案外一件につきまして、その提案の理由を御説明申し上げます。

この法律案は、今国会において、別途御審議をお願いいたしております補正予算案に伴うものであります。食糧管理特別会計において昭和二十七年度に生ずることが予定される歳入不足百十四億六千万円を補填するため、その不足額を一般会計から同会計に繰り入れることができます。すなわち昭和二十七年産米の消費者価格及び生産者価格の改定措置等に伴つて生ずる不足金十八億円余、昭和二十七年産麦の売買差損二十億円余、昭和二十六年産米につき、昭和二十七年度において獎勵金等を支払ったことによる不足金十億円余、その他学校給食用輸入小麦の売却に伴つて生ずる不足金十四億円余等

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

に、私の質問の要点からはずれてもけつこうでありますから、当面防衛水域ということに関連いたしました相当の事実を御説明いただきたいと思います。
○岡崎国務大臣 朝鮮との間の会談につきましては、これは水域の問題のみならず、いろいろの問題があります。そこで複雑な形をとつております。その目的としては、いろいろ向うの立場もありましたようから、そう主義上の問題をあまり議論しても益がないであります。と思ひますが、とにかく日本の船が漁業ができるようなことにすれば、かくに李ラインがあつてもなくとも、あるいは防衛水域というものがあつても、なくても、漁業ができるえすればそれまでとりあえず満足しようという目的で話合いをいたすわけであります。これにつきましては、私もたとえば司令官あるいはその他の国連軍関係の人にもしばへて会いましたし、また朝鮮側の代表者にも会いました。あるいはアメリカの朝鮮における大使にも面会をいたしまして、いろいろこちらの事情を説明して来ております。その結果、多分壇見君からもすでに御説明があつたと存じますが、国連軍側としては、防衛水域の問題についてはできるだけこれを一時的のものにして、早く解除するような努力をしようということになつておりますし、また解除するに至らないまでも、日本側業者の損害をできるだけ少くするように、不便であつても努力しようという気持にはなつております。そこでさうした防衛水域といふものは、いわゆる李承煥ライシンとは關係のないものであるということも言明を受けております。それでは

防衛水域を何ゆえに設定しなければならないかということについては、いろいろの理由があるようでありまして、これは多少軍事上の機密に属することもありましようし、全部ここで申し上げるのはどうかと思いますが、たとえば北鮮側の捕虜をたくさん収容しておる、その捕虜を、御承知のように集団的に一ところに置いたためにいろ／＼の問題が起つたので、その捕虜を分散していろ／＼の小さな島に置いてある。その場所等も祕密にしておるんだけれども、とかく北鮮側からの密入船によつていろ／＼連絡されたり、情報を受けたり、あるいは脱走を企てたりする形跡があるし、またその者たちはある場合には日本の船なりといつて、日本の艦艇等を偽造して、その水域に入つて來た例もしば／＼ある。こういうようなことも一つの理由で、これはほんとうに軍事的な必要な迫られて防衛水域というのを設定せざるを得なくなつたようあります。従いましてわれわれとしては、国連側に協力するという意味から、この軍事上の必要を妨げながらない。しかし軍事上の必要の許す範囲では、日本の漁船もそこに入つて漁業してもよからうじやないか、というふうないろいろ／＼な説明をいたしておるわけであります。そこであまり問題がむずかしくなりますと、今度は軍事上の必要で全部漁船に対する退去はあるいは禁止区域ということになりかねない勢いもありますので、ただいまのところは、入つてもよいけれども、退去を命ずることはあるべし、退去を命じた場合には、おとなしくその地域から退去してもらわなければ困

る、こういうことだとどめておるわけあります。そこでただその中でむづかしいのは、御承知のように、韓国側の空気がありますのですから、国連側の海軍と申しますものは、その防衛水域の中ではアメリカの船もあり、あるいはそのほかの国の船もあり、韓国船が監視に当つた場合には勢い監視が非常に嚴重になつて、日本の漁船に思わない困難を与える例がしば／＼あつたわけであります。こういうようなこともありますけれども、われ／＼としては絶えず国連側と連絡をとりまして、われ／＼の方も大いに協力して不便がないように努力するのだから、先方においてもわれ／＼の方にできるだけ必要な不便を与えないようにしてもらいたいということで、先方もその主義上の点においては了解いたしておるのあります。実際上において往々にして手違い等もあり、漁船に困難を与えることはありますても、国連側としては決して拿捕をしない、あるいは決しても、さしあたりはこの程度で行きまして、だん／＼に空氣の改善するに従つて緩和を考えたい、ただいまこういうような状況であります。

が、その理由はどういうわけか。向うは李承晚ラインを侵したというが、そういうことはわれ／＼の方で認むべきものではない、国際法に根拠がない以上は拿捕は不法である、こういうことを韓国政府に嚴重抗議したということだが伝わつておるのでですが、それに対しまして韓国政府は今日までのところどういうふうな回答をして参りましたか、これを伺えば諸般の事情がわかると思います。

○岡崎國務大臣 これは先ほど官轄委員もおつしやいましたように、先方とこちらとの——とにかく海の上でありますから、そこにいたと言つても、あとまで証拠が残らないわけであります。従つて先方は漁夫、漁船をそのまま持つて行つてしまいまして、いろいろな方法はありましょうが、沿岸を侵したというように供述書に署名させることで、先方の公式的返事はやはり沿岸を侵した。決してほかのことを言つてゐるのではないであります。しかしながら実際上の事情は、ある程度先方にもわかつているようであります。そのため、裁判がある場合には、裁判が終らないものにも、救恤品を送つてやりたいと言えど、そう反対するわけでもないし、また実際上の事情から、だん／＼罰金を科するものもあり、科さないでそのまま帰して来るというような処置をとるものもありますので、事実上こういうものは両方とも主張は、こちらは不法に拿捕されたと言つて、先方は沿岸を侵したからとは言いますけれども、その間の取扱いが、沿岸に近ければ近いほど取扱いがむずかしい、遠ければ遠いほど実際上は取扱

いがゆるくなつてゐるというような点がある程度認められるようになります。われ／＼としては、そういう点で実際上の解決をいたしたい。こう思つて努力をいたしております。

○宮幡委員 なおもう一点だけ外務省の見解を伺いたいのです。先ほどお話を中にもありました臨検といふことは、國際慣行によつて行われるべきだということですが、現在行われております臨檢の程度といいますか、あるいは方法といいますか、これは実際がどうであつて、それが國際慣行に一致しているものであるかどうか。この点についてお伺いします。

○岡崎國務大臣 私の報告を受けました範囲で見ますと、米国の艦船等によつて受けている臨検は、大体普通の国際法の慣行によつているようあります。韓国側の船舶が行いますものは、往々にしてその範囲を逸脱してゐるようと思われるのですが、しかしそうかといつて結局議論になりますと、向う側は自分はそんなことをしていない、こちら側はしていると言つて、水かけ論になる場合が多いようであります。しかし事実はそういうふうにわれ／＼は考えております。

○宮幡委員 朝鮮の問題は、これはまったく水かけ論で、従いまして時間もありませんので、集約して結論的に御意見を伺いたいと思います。いわゆる範囲はどの程度のものであるか、あるいは李ラインと同一のものであるか、この点をひとつ明確にしていただくと同時に、外務大臣として、防衛水域の

問題でラジオや新聞等に発表されたことは、必ずしも正しいとは思いませんが、それらによつて伝わつておりまする十一月初めごろの外務大臣の意向は、まあ出漁は情勢に応じてやるべきである、最終的な黑白はつけない方がいいというような、これは今の御説明の中で大体判断ができるのであります。が、つけようと思つても水かけ論になつてしまふ。それ以上国際関係が悪化するということもなくないので、最終的な結論は時が賢明に解決する、あまり黑白をつけない方がいいんじやないか。これは私は個人といたしましては大体御意見の通りだと思う。しかもしれをつけようとしても、日韓会談というもののが行き惱みになつておりますして、いつ開くという見通しもない。単にこの出漁の問題だけではないのでありますから、さうなことになるのはやむを得ないと思います。しかしながら航海自由の原則というようなものを振りかざすと、防衛水域ができましても、必ず生業の保障ということはしなければならない。でありますから出漁が禁止的になつたということに対しでは、私は国連軍に対しても十分なる抗議を申し込む余地がある。お話を中におきましても、ずいぶんこの点をお骨折りをいただいてることは察知せられてゐるのであります。しかして最後に国連軍が申しましたことは、これは私はラジオで聴取いたしましたことをちよつとノートしておいたのであります。が、出漁を黙認するという言葉を使つている。これは英語では何と言つて発音したかわかりませんが、日本の言葉では黙認するのだ、出ていい時期には入つてもいいんだと私は解釈している

○岡崎国務大臣 防衛水域の性格につきましては、必ずしも戦闘が行われてゐるから危険区域だという意味ではありませんが、軍事上の機密保持のための必要な区域、こういうふうに考えております。たとえば武器を持つて北鮮側に陸揚げしようというような者を防ぐこともあります。それから北鮮側からの連絡者その他密航者を取締ることもあります。いろいろの意味で、軍事上の機密保持及び軍事上の防衛の必要上ということであります。従つてその区域の中も、全然禁止されている区域で船が通つちゃいかぬというものではないのであります。その中に一定の航路をあけまして、たとえば日本と韓国の釜山なら釜山との間のいろいろな物資輸送の船は、これは通つ行くわけであります。そのかわり一定の標識をつけ、一定の時間にどこを通るというような連絡があつてそこは通つてよいとしているから通る。漁船の方につきましては、先ほども申しましたように、日本の漁船と称して、実はそうではないものも現われて来るようなわけでありますから、これは一々臨検をする。またその間にいろ／＼機密保持ト必要があれば退去を命ずる。こういうのがありますが、そういう段階に今まで対しては時間の関係もありますから差控えます。

このような性質のものになつておらず、この点はなほだあいまいで申訴がないようなこともあります。が、往々にしてこういう事情を御了承願わなければならぬ場合があるのであります。漁船としては行つていいのか悪いのかと、いうようなことがあると思ひます。広い水域でありますから、漁業に従事してもさしつかえない場合もあり、また同じ場所でさしつかえのあるようなことができる事情もあるのであります。この点は、默認というのも少し私は言葉が過ぎるのぢやないかと思ひますが、要するに退去を求められたならば退去すべき水域、どうもこう御了解願うよりいたし方ないと思うのであります。

なお日韓会談につきましては、それほど私は再開が困難だとは思つておりませんけれども、ただいまの韓国側のいろいろな空氣、たとえばもし日本人の人間が国連軍に参加して来るような場合は、共産軍とは戦わずして日本軍と戦うとかいうようなことを伝えられたり、あるいは日本の新聞の代表者が東京から退去を命ぜられるということがあつたりするような状況で、この空気を緩和することが第一に必要だと思って、その方に努力をいたしておりますが、私としては、本会議の外交演説で申しましたように、いろいろ準備を整えまして会談を再開したい。そして根本的にこういう問題を解決したい。また実際にこういう水域が設定されておりまして、韓国側との間の関係がもつとよくなれば、従つて韓国の艦船が日本側に対して特に不必で重要な干渉をすることもなくなるわけがありますので、その方面からの空氣の

○佐藤(觀)委員 漁船の拿捕についての国家的の損害は毎年出ると思うのですが、岡崎外務大臣に——實際今台灣政権と中共政権とが御承知のようにありますから、その点について、いつまでもこういうようなことを繰りて行かれるのがどうか。また外務省はこれに対してどういうような方法でやつて行かれるかという問題が第一点。

それから台灣政権と中共政権とあつて、今は御承知のように日本は台灣政権を認めているのであります。中共の現実の実力といふものは、これは無視しがたい事実であります。それは、無条約のために出て来る問題では、イギリスが認めておるのように、實際は中共の力が強いのであります。こういう点について、一体政府は——こういうような漁船の拿捕というような問題では、無条約のために出て来る問題でありまして、いつまでもこれが続くようであれば、漁民は非常に大きな犠牲を受ける。ソ連の方の状況も同じでありますけれども、一番困るのは、こつちの方は中共と台灣の政権が非常に複雑になつてゐることであります。こういう点についての外務大臣の簡単なる御見解をひとつ御説明願いたいと思います。

こともできませんような事情でありますから、われ／＼の主張をまげない範囲において解決しようとして、第三国を通じて交渉等をいたして来たのであります。されど、どうしてもこれは隔離擱洋といいますか、直接の交渉ができますが、今その十分な結果は出ておりません。国民政府、つまり台湾政府との間におきましては、日華条約交渉の最中にすでに話をいたしておりまして、その後だん／＼話が進んで来ております。ただ、今まで多少の議論の余地がありますのは、われ／＼の方では終戦以来台湾、國府側において抑留等をされた船は、抑留が二十九隻、撃沈が二隻、没収一隻、こういうふうであります。この隻数については、たとえば撃沈した二隻というものは、そんなものはないんだというような向うの主張もありまして、まだ結果を申し上げるまでに行つておりますが、この方は相当程度解決する見込みであります。

す。いずれも系統立ったやり方をいたしておるわけじやありませんけれども、やはりこの際は実際的に早く解決する方がいいと思いますので、そのときどきに応じたやり方で、早くこつちへ船も漁夫ももどつて来るような措置をできるだけ講じよう、こういうのと、その都度いろいろの方法でやつておるような次第であります。

○佐藤(觀)委員 時間を急がれるようですから、もう一点。ソ連の方の権太からこちらの方の水域はどういうふうに処置されるお考えであるか。北海道の方でこのごろ大分拿捕されておる状況を聞きましたが、その点の処置です。

○岡崎国務大臣 這の方は実は措置の方法がなくて困つておるのであります、これにつきましては、一番問題になりますのは、根室の先のところでありまして、これは海域が狭く、その間に元のマツカーサー・ラインがあるわけであります。ところがソ連の方はまだ講和になつておりますから、マツカーサー・ラインが生きておるという建前をとつております。ところがそのマツカーサー・ラインの陸地側のところが、潮流やら浅瀬やらの関係上なかなかうまく通れませんで、うつかり通ると向う側に出て行く可能性が出来ます。そのために抑留されたりいろいろされたりする船が出て来る、これが一番多いわけであります。これにつきましては、いろいろ妙なことであります、そのたびに新聞に出で、ことに東京の新聞は少くとも、北海道の新聞に盛んに出てたり、あるいはそこ住民が非常に心配して騒ぎだりますと、いつの間にかそれが先方の耳に入

るようでありまして、その結果ソ連側としても、日本の国民の、ことに北海道方面的国民の反感をつのらせるということは得策でないと考えておるのじやないかと思いますが、何となく帰つて来るのが多いのであります。これは、はなはだたよりのないやり方でありますけれども、まあ世論を動員して、ということが、一番ただいまのところは有効なような気がいたしております。

か、このお見通しをお話をいただいた
○塩見政府委員 今年度は大体一億五
千万円ぐらゐの繰入れでまかなえると
見通しておるのでございます。来年度
は現在の見込みといたしましては、五
千万円程度の繰入れでやつて行けるの
ではないか、こういうふうに判断いた
しております。

○宮幡委員 今の拿捕されました船、
乗組員の措置についての交渉経過、ど
ういうふうになりましたか、それを伺
いたい。

○塩見政府委員 奈捕されました船に
つきましては、外務省を通じまして相
手国の方と交渉をしております。大体
今までの経緯といたしましては、長い
のも短かいのもござりますが、船の方
は帰つて参ります。大体漁獲物とか漁
具とかいうふうなものは、とられる場
合が往々にしてあるわけでございまし
て、船の方は大体において帰つて来る。
こういうことになつております。見通
しとしましては、従来通りの交渉によ
つてそれを確保したいと思つております。
また乗組員につきましては、これ
は乗組員の給与の保険をやりまする法
律が先般の国会で通つておりますので、
予算的な裏打ちが今度の補正予算にお
いてなされてゐるわけでありまして、
それによつて一応一時的な救済はやつ
て参りたいと思つておりますが、この
乗組員の方も、韓國側において抑留さ
れました場合には、大体において従来
の例によりますれば、外交交渉によつ
て帰つて参つておる、こういう状態に
なつております。

下旬に発表された、私が読み上げました数字が必ずしも正しいとは言いませんが、それらについて直接解決したものがあるかないか、それによつて今後起るべき事故——起るべきということはきわめて遺憾であります、どうも外務大臣の説明を聞いてみても、他の関係の方々の説明を聞いてみて、また起ると思わなければならぬ状況にある。それからどういふうに解決して行くのであるかということを見きわめなければ、これは単に保険でもつて補填するくらいの程度で日本の漁業が守られるとは私は考えていない。御承知のようにマッカーサー・ラインの中にとじ込められ、しかも近海漁業に専念いたしました日本の精鋭なる漁業は、すでにその近海の漁族をとり尽したと申してよろしい。もつと広漠なる地域にわれくの漁船の活動を展開しなかつたならば、漁業振興などむやみに金を出しまして、むやみに助成いたしましても、実際において水産資源の確保というものはできない。それはせつかくの国民の税金からなりまする金をむやみに助成という美名のもとに散布するだけであつて、抜本的な漁業対策にはならないと思う。そこでこれらの方々の交渉は外務省を通じてといふお話をありますのが、具体的にどれだけ片づいて、今後こういう事故が起きましても早期解決ができる、漁民もある程度安心してこの海域に出漁できる、国連軍も黙認するといつております。そしてわれわれの、ともすれば軒落して行こうといだしまする漁村の経済の發展をはかることが緊要な問題なんだ。そこでこれらの問題がどういうふうに一つ／＼解決しておるか、この

ことを私は伺いたいのです。この問題がなければ、保険制度なんといふものでは、これはカバーできるものじやありません。その点について、もし必要があれば、資料も提供され、何という船がどういうところでとらえられて、どういうふうにして帰つて来た、こういう具体的なことを水産庁としては、われ／＼のこの国会へ報告していただきたい。われ／＼もこれらの事実を知らなかつたならば、漁村を代表いたします議員といたしましてその職責を全うすることはできない、これはもう真剣な問題であります。どうぞ具体的にその点をこの委員会において明らかにしていただきたいと思います。

昭和二十七年十一月十日印刷

昭和二十七年十一月十一日發行

衆議院事務局

印刷者 大藏省印刷局